

# 協働による藻場づくりの成果を発表

## 美国・美しい海づくり協議会

8月24日から2日間の日程で全国漁業協同組合連合会が主催する藻場技術講習会が小樽市と積丹町を会場に行われました。

この講習会は、藻場や干潟の保全のために全国各地で実施されている環境・生態系保全活動支援事業の先進的な取組事例を報告し、技術水準の向上や情報交換の場とすることを目的に開催され、全国から漁業者や行政・研究機関関係者など57人が参加しました。



環境・生態系保全活動支援事業は、積丹町内では、美国地区でダイバーや漁業者で構成する「美国・美しい海づくり協議会」、余別地区で主に浅海部会が中心となる「余別・海HUGくみだり」が、それぞれの海域で磯焼け対策のための取組みを実施しています。



▶美国・美しい海づくり協議会の活動を発表する神哲治会長

◀藻場繁殖状況の現地視察 (美国漁港地先)



24日には、小樽港マリナーナで、水産工学研究所などによる藻場造成のための講習が行われたほか、美国・美しい海づくり協議会の神哲治会長が、レジヤードイバーと協働により行われる藻場づくりや、子どもたちを対象とした藻場の観察会「スノーケリング教室」などの幅広い協議会の活動を報告。翌25日は、会場を美国漁港に移し、藻場の繁殖の現地視察が行われるなど、磯焼け対策の実践活動の状況などについての貴重な意見交換の場となりました。

# 町をあげて5年目の取組み

## ゴミ持ち帰り運動・クリーン作戦



町では、8月6日に海水浴客で賑わう町内の海岸線での「ゴミ持ち帰り啓発運動」と、観光シーズンが終盤を迎えた8月22日に、「クリーン作戦」を余市警察署、観光協会、商工会、自治会、老人クラブ、女性団体、後志総合振興局などからの参加者約230人のもと実施しました。

炎天下で実施されたクリーン作戦では、約1時間半でホイールのついた古タイヤや家具・家電など大型のものを含むゴミが、4トンダンンプ1台分も回収されました。

観光シーズンの環境美化対策と観光客への意識の高揚を目的に実施されるこの取り組みは今年で5年目を迎えます。

悪質な不法投棄の撲滅に向けて地域が一体となった取組みと、一人ひとりの心がけが、回収と処分にかかる多額の費用を減らし、自然環境と漁業資源を守ることに繋がります。



## 積丹岬に「清掃協力金」募金箱を設置

### 神威岬に続き2か所目

町内産業団体で構成する積丹町自然環境保全協議会（会長・佐藤勝次観光協会会長）は、神威岬に続き2か所目の設置となる自然環境保全協力金を呼びかける看板と募金箱を島武意トンネル入口に設置しました。

345万4,438円となり、その一部は遊歩道の防護柵や階段、啓発看板等の補修に充てられ、安全できれいな環境の保全に努められています。

平成19年5月に神威岬に設置された協力金は3年間で総額

努められています。

